

氏名	范 翔
学位の種類	博士（体育学）
学位記番号	第16号
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位授与年月日	平成26年10月30日
学位論文題目	過疎地域に在住する高齢女性の体力と各関連要因に関する研究
論文審査委員	主査 吉武 裕 副査 西菌 秀嗣 副査 山崎 利夫

## 論 文 概 要

### [研究の背景および目的]

これまで、高齢者の体力は「生活習慣病」や「下肢の障害」などの身体的特性、「運動習慣」や「食習慣」などの生活習慣、「外出頻度」や「社会活動の参加状況」などの社会的特性と関連することが報告されている。しかし、日常生活全般を捉えた上で、特に過疎地域に在住する高齢女性を対象として、体力と上記の各要因の関係についての研究はみられない。

そこで本研究では、取り巻く環境が都市部と著しく異なる過疎地域に在住する高齢女性を対象に2つの研究を行った。まず、過疎地域に在住する高齢女性の体力と身体的特性、生活習慣及び社会的特性との関連から、過疎地域の高齢女性における介護予防施策のあり方について検討した（研究1）。次に、健康運動教室に参加している高齢女性を対象として、体力と支払意思額（Willingness-to-Pay: WTP）を測定し、教室の経済価値や健康への投資額について検討した（研究2）。

### [研究の方法および結果]

**【研究1. 過疎地域に在住する高齢女性の体力と身体的特性、生活習慣ならびに社会的特性との関係】**

研究1においては、過疎地域に在住する65～90歳の高齢女性116人を対象として、身体的特性、生活習慣ならび社会的特性に関する質問紙調査を行った。体力測定は、握力、開眼片足立ち、ステップング、膝伸展力、長座体前屈、10m歩行速度の計6項目について実施した。体力については、各体力測定項目のZスコアの合計得点を算出し、それぞれ「高体力群」、「中間群」、「低体力群」の三分位に分け、「低体力」に関連する要因を検討した。その結果、身体的特性においては、「下肢の痛み」、「3つの日常生活動作（手すりを使用しないでの階段昇りと階段降り、ひじ掛けや物を使用しないでのイス

からの起立)ができない」、また、生活習慣においては、生活満足度が低い、「週当たりの運動実施頻度が低い」、さらに社会的特性においては、「外出頻度が低い」、「近所の友人や家族等と会話する機会が少ない」の9項目で低体力との間に関連性が認められた。

【研究2. 支払意思額を用いた地方自治体における健康づくりプログラムの評価：鹿児島県大崎町の高齢者向け健康運動教室を事例として】

研究2においては、健康運動教室に常時参加している40名の高齢女性を対象として体力測定とWTPについて調査を行った。対象者の年齢と体力が影響要因としてWTPと関連していることが示唆された。さらに、高齢者の健康運動教室へのWTPの応用の可能性については、質問形式、支払い方法の定義、調査の方法、妥当性と信頼性の点から検討した。

[結論]

以上の結果から、次のことが明らかになった。1) 身体的特性（下肢痛、日常生活動作能力）と生活習慣（運動習慣）ならびに社会的特性（外出頻度）と過疎地域に在住する高齢女性の低体力に関連性があることが示唆された。2) 高齢女性の体力と健康意識（金銭的）は関連していることが示唆された。

## 論文審査の要旨

本論文は、過疎地域高齢者の運動指導のあり方だけでなく、運動指導の費用便益（支払意思額）も含めて検討しているところに新規性がある。まず、都市部高齢女性に比べて過疎地域高齢女性の体力は身体的自立、主観的健康観、外出頻度の間により高い関連性がみられることを明らかにしている。また、運動指導への支払意思額と体力の関係を検討し、過疎地域高齢女性も運動指導への金銭的な自己負担は必要と考えており、特に体力水準が高い高齢者は高負担でも容認する傾向があることが示された。以上のことから、本論文は、今後更なる高齢化の進展と要介護者の増大が危惧されている過疎地域における介護予防を目的とした運動指導の必要性およびその運営のあり方について検討した貴重な研究であると考えられる。